



### あっち・こっち・ウォッチ！（続・国道473号）

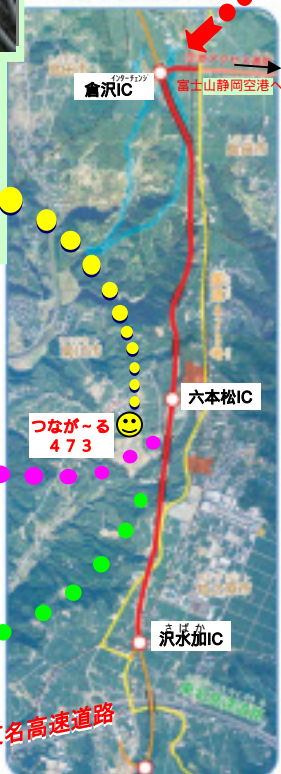
★★『つなが〜る473』の見学者が1,000人を突破★★

『つなが〜る473』は、東名相良牧之原ICから富士山静岡空港を結ぶ金谷相良道路(国道473号バイパス)の建設事業について、県民の皆様にはバイパス整備の目的や効果を知っていただくとともに、公共事業へ一層関心を持っていただくため、昨年7月に開設した広報拠点施設です。これまでに、県内各地から1,000人を超える方々に見学していただきました。



つながーるでは、職員の手作りによる橋梁の模型で、橋の仕組みや工法をわかりやすく説明しています。

建設中の橋げたの中を見学し、壁にサインをしました。記念になるね。



### ★★2009年3月富士山静岡空港の開港に向けて工事が順調に進む★★



名称決定!

東名高速道路

# なるほドボク

県道 磐田停車場線 交通安全対策事業 (磐田市中泉)

## もう安心して通れるよ!



交差点内の車線幅を見直して歩道をつなげました。短期間かつ少予算で、児童が安心して通学できる交差点に生まれ変わりました。

### 利用者からひとこと

私達の地区の子供達は、毎朝ジビロードと呼ばれている56号線を通り、261号線へ向い登校しております。その時に交差点を利用しています。交通量も多く特に261号線に向う右折車が多い所です。ところが、信号待ちする場所が狭く、歩道と車道を区別する緑石も途中までしかなく、反対側は歩道自体狭いという現状でした。毎朝児童が利用する通路として少しでも安全にしたいとお願したところ、緑石を増やし、信号待ちの場所も工夫し、横断歩道の場所も渡りやすく移動していただきました。一人の児童の声から、このように少しでも安全と実行して下さい感謝しております。これからも安心安全を目指した道路作りをお願いします。これからも。ありがとうございました。

磐田市立磐田中部小学校 生活指導部 渡邊豊子 様より

## 新春 一口メモ 特集!

### 道路特定財源

ニュースですっかりお馴染みになった感のある“道路特定財源”ですが、平成18年度の県道路関係事業費に占める道路特定財源の割合は54%に過ぎず、不足額は一般税収などで補われています。当事務所では、今年度の事業費は約99億円(本誌編集時)ですので、その内の約53億円が道路特定財源と言えます。

毎年、皆様から国道や県道の整備促進について多くの要望を頂いておりますが、これらを実現するためには道路特定財源を含む道路整備予算の確保が必要なおことから、各市町議会ではその意見書が相次いで議決され、関係大臣等に提出されています(静岡県議では平成18年12月議会で意見書が採択され、総理大臣や衆参両院議長等に提出されました)。

ちなみに、道路特定財源の約75%は、ガソリンや軽油等の購入時に徴収された税金です。

伊奈忠次(いな ただつぐ)1550-1610

家康の近衆として検地(伊奈流)・治水(利根川や荒川など)・新田開発などに敏腕を振るい、江戸幕府財政の基盤を固めた人。駿河・遠州・三河の奉行職として活躍した後、初代の関東郡代として家康の関東支配に貢献しました。

角倉了以(すみのくら りょうい)1554-1614

朱印船貿易で巨富を得た京都の豪商で、その資金を元に、高瀬川、富士川、天竜川などの河川交通路の開発に力を注いだ。技術も資金も全てで成し遂げた事業手法は、新たな公共調達として最近注目されているPFI(民間資金活用)事業とも通じる所があります。

上の と の歴史上の人物は、本紙面の“普請の歴史探訪”に登場しています。

### ……プレゼントクイズ……

問題:江戸初期に、太田川と原野谷川を真直ぐに海へ流れるように改修した人物は誰でしょうか?

- A. 清水次郎長 B. 国定忠次 C. 伊奈忠次

葉書、メール、ファックスのいずれかの方法で、クイズの答え、紙面の感想やご意見、住所、氏名、年代と性別(例:40代女性)を明記して、2月10日必着で下記へお送りください。抽選で10名様に、豊岡梅園の入場券2枚を差し上げます。

(見頃:2月中旬~3月上旬、豊岡梅園様提供。)

お知らせ

### 読者の声



海岸の侵食はニュースで見たことがありましたが、こんなにひどいことになっているとは知りませんでした。あらためて考えさせられました。(30代女性)

知らないことがいっぱいでした。(20代女性)

遠州灘沿岸保全に関心を持っているものとして、今後の同誌も定期的に目を通したいと思います。(男性)





# 江戸時代（前期）の中東遠

（1600年～1706年：戦乱の世から太平の世へ）

注：この地図は専門家の監修を受けておりません。お気付きの点がありましたらご意見をお寄せください。

（1615年頃まで）太田郷（森）で六人の名主が農民を統率して、太田川の氾濫を防ぐために流路を変え、新しい村の建設に取り組んだ。

（不詳）稗原村で柳十内が堤防（柳堤、十内堤）を築く。

1620年頃から少しずつ、天竜川に堤防を築いて新田開発が行われた（七蔵新田、源兵衛新田、善衛門新田）。

1607年、家康が、京商人の角倉了以に水路開発を命じ、天竜川の舟運が始まる。以後、掛塚湊が木材の集積輸出で栄える。

磐田市南部で新田開発が盛んに行われた。  
1625年、塩新田  
1643年頃までに清庵新田  
1666年、請負新田

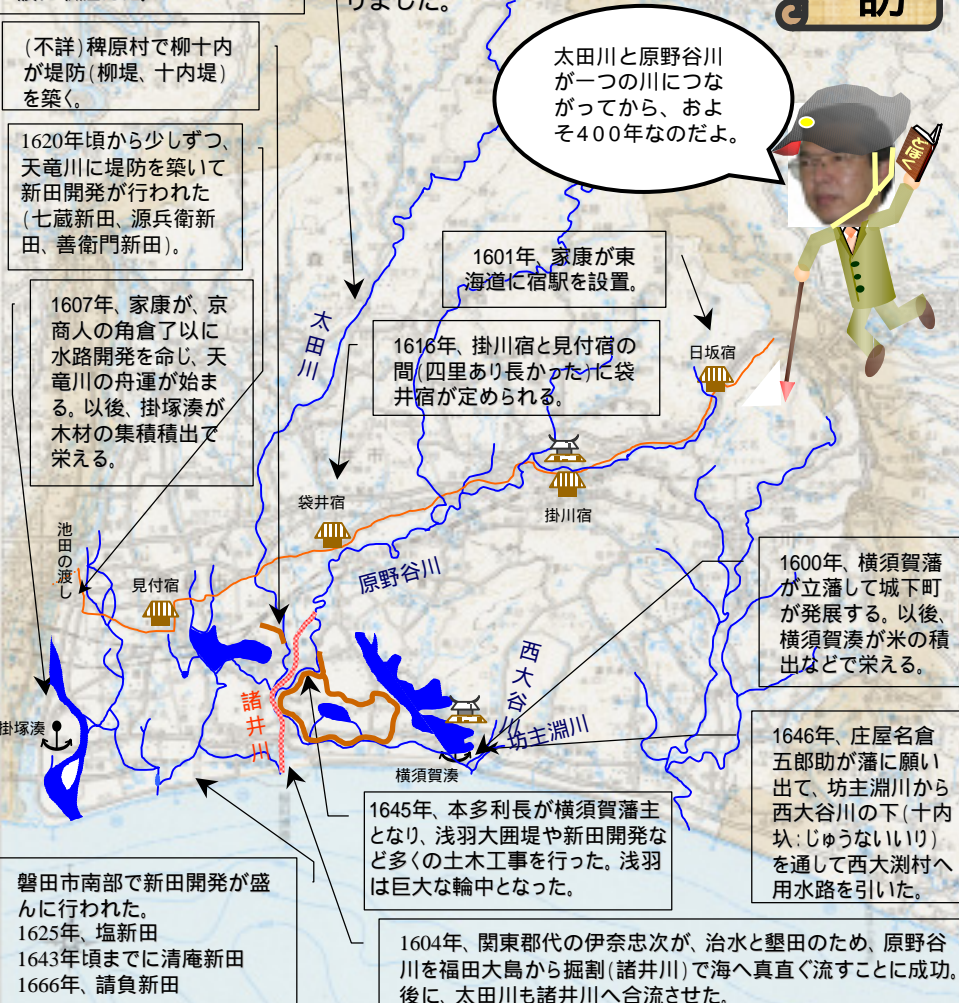
一豊と千代の時代に遡って、中東遠の建設の歴史をご紹介した前回に続いて、今回は江戸時代（前期）です。

世の中が安定してくると、大規模な治水工事が相次いで行われるようになり、それまで氾濫していたような土地でも新田開発が行われました。

また、米や木材などの物流も盛んになりました。

## 普請の歴史探訪 （第二回）

太田川と原野谷川が一つの川につながってから、およそ400年なのだよ。



# 日本初の取り組み！

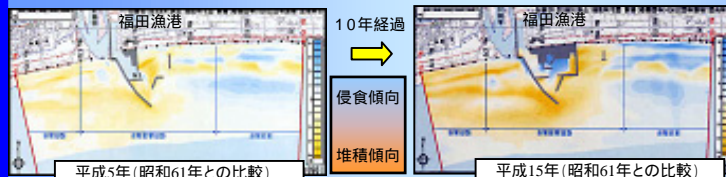
第2号では、砂浜の減少が進む遠州灘海岸の現状や、地域の方々のご意見などを、お知らせしました。

今回は、砂浜の保全対策のうち、日本では初めてとなる新しい取り組みについてお知らせします。

現在、天竜川の流出土砂の減少とともに東向きの沿岸漂砂が福田漁港にさえぎられ、その東側に砂が到達しないため、浅羽海岸では深刻な海岸侵食が発生しています。一方で福田漁港では港の入口に土砂が堆積して漁船の航行に支障をきたしています。



【福田漁港と浅羽海岸周辺の水深の変化の様子】



そこで静岡県では福田漁港の航路埋塞と浅羽海岸の海岸侵食を同時に解決するサンドバイパスを計画しています。

これは、ジェットポンプで福田漁港の西側に堆積した土砂を海水ごと吸い込み、圧送管で侵食が進む浅羽海岸まで輸送、排出する計画で、オーストラリアやアメリカでは実績があるものの日本では例が無く国内発の恒久的なサンドバイパスシステムとなります。

このシステムが稼働すれば年間約8万<sup>m<sup>3</sup></sup>もの土砂を効率的に浅羽海岸に送ることができ、現状の砂浜を維持できるものと期待しています。

# サンドバイパスで砂を運ぶ！



また浅羽海岸にはアカウミガメが産卵に来ることもわかっていました。そこで年間の土砂排出時期をアカウミガメの産卵時期を除いた8ヶ月間として、アカウミガメの繁殖に配慮した計画を立てています。

このサンドバイパスシステムは来年度から工事に着手し、平成22年度の運用開始を目標にしています。

なお次回は、天竜川についてお伝えする予定です。